

京交山岳部報

今月のテーマ

《雪を惜しんで》

〔第1732回例会〕

宇陀松山の出城があった山

城山(岳山)

日時 4月8日(土) AM:7:00
 集合 近鉄京都駅のりば改札口
 (7:17発急行乗車)
 コース 京都-長谷寺-与喜浦-永井坂
 -長者屋敷-城山△526m-
 往路帰京
 担当者 検車区 大倉寛治郎(☎3371
 ☎462-4332)
 備考 乗車券は長谷寺まで。
 申込みべ切り 4月6日(木)
 交通費 各自負担

〔第1733回例会〕

西山の植生研修

日時 4月9日(日) AM9:00
 集合 阪急東向日駅前
 コース 東向日-南春日町-金蔵寺-
 小塩山-花の寺-南春日町
 (解散)
 担当者 OB 坂井 久光
 備考 山岳連盟(自然保護委員会)

〔第1734回例会〕 春山大会

姥ヶ岳・能郷白山

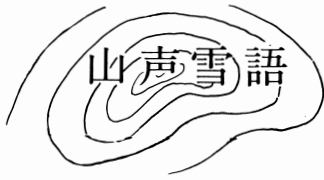
日時 4月29日(祝)~30日(日)
 AM6:00
 集合 壬生交通局前
 コース (29日) 京都-能郷谷…姥ヶ
 岳(テント泊)
 (30日) 能郷谷…前山…白山
 往路下山
 担当者 梅津 吉田 武(☎331-0998)

今月の集会

日時 4月11日(火) PM6:30
 場所 厚生会館4F大教室

企画運営委員会

日時 4月20日(木) PM6:00
 場所 厚生会館4F大教室



ふるさと創世交付金

岡田 茂久

「余暇促進基本法」に次いで政府としてはユニークな試みである。全国に三千二百四十五ある市町村の内から、富裕な団体を除いた三千五十七の市町村全部に「ふるさと創世交付金」として一律に一億円を交付しようというのである。

「市町村が自ら考え、自ら行う地域作り事業」を国が一億円を交付し支援するというのが施策の骨子で、その一億円をどのように使うかはその市町村に任せている。市町村にとっては棚からぼたもちである。しかし一方では思わぬ税収の伸びで交付ラインをわずかに突破してしまい、みすみす一億円をもらい損ねて泣きたくするような悲劇的な市もでてきたりで、一律一億円の交付というのは一部では批判もあるが、ともあれ壮大な無駄遣いに終わるか、国全体の活性化につながるか、まさに身近に国民の手に委ねられたとも言える。

これまでの交付金と違って国からは「ハードな事業でなくソフトな事業に活用して欲しい」との意向だけではっきりとした指針が無いためか、交付されるどの市町村とも使い道に戸惑っているのが実情らしい。某新聞社がその一部を調査して公表したのをみると、何に使うかまだまだ検討中のところがほとんどで、行政だけでは使い道を決めかね賞金付きで住民にアイデアを募集中という所が多く、とりあえずは一億円の金塊を購入展示して全町民でゆっくり使い道を考えようという町もある。すでに決定した各市町村の計画一覧を見ると、人材育成、観光開発、福祉充実、地域基盤整備、文化芸術振興、環境整備等の全体的に堅実な計画が多いが、中には「乗鞍高原に宝を埋めて宝探しをする」「UFOによる町おこし事業」「ソ連からマンモスの化石を購入しよう」「くちらの養殖」等の夢のある計画もある。一番多いのは史跡整備や観光開発計画で、中でも福祉を兼ねて温泉を掘る計画というのが目だっている。失敗する可能性が多い事業だけに駄目でもこの際というわけだろう。

しかし残念なことには、植林や公園整備等の自然環境整備をうたった計画は多いが、自然保護そのものを取り入れた計画が大変に少ないことである。それらしいのは今のところ山形県長井市の「市有林を伐採禁止にして(不伐の森)に育てる」ぐらいである。もっとも交付の主旨がふるさとを創世し地域の活性化を計るということであるから、非生産性の高い自然保護は対象には仕難いのであろうか。しかし本来一億円の使い道には何の制限もなく市町村に任されているのであるから、もっと自然保護に交付金を当てようとする市町村があってもいいと思うのだが。全国的にブナ等の「自然の原生林を残そう」という声が高まっている中、各市町村は小さくても良いから、まず身近な自然をこの交付金で買い取り、「市民の森」「町民の森」として整備してはどうだろう。かつて滋賀県では朽木・葛川県立自然公園として伐採寸前だったブナの原生林を買い取って貴重な自然を守った経過がある。京都でも芦生の京大演習林をはじめとして大江山八合目にはまだ貴重なブナの

原生林が残っているという。

いくら自然保護をうたっても最後は金の問題である。まだ幸いというか京都市では交付金を基金としてプールし、これからじっくり使い道を考えるということである。我々が声を大にして自然保護を叫んで運動すれば「京都市民の森」が整備される絶好の機会では無いだろうか。

〔第1725回例会〕

冬山登山大会 三室山

横井 囊 二

雪の八丁平を期待していたが、願いも空し雪は全然望むべきもなく、兵庫の西、後山か、三室山に急拠予定を変更する。

2月11日朝、西に向って車2台に7人と満タンの荷物を積んで7時35分壬生を出発。途中中国自動車道加西から渋滞に巻き込まれたが、11時過ぎに山崎町に着く。ここで中国自動車と分れ、食糧も買込み北上する。山が近くなると雪が目につくようになり、車中で今回の目標を三室山と決定。

満員札止めの、某スキー場行きの道を左にして右に向う。雪が増しチェーンを装着して1KM程で、三室高原青少年野外センターに到着。

この辺りは、氷ノ山、後山、那岐山、国定公園のエリアであって風光明媚な所であるが、この時期訪れる人も殆どなく静寂そのものである。北側に新雪をかぶった嶺が遠くに。

早速幕営の準備と共に、野外センター前の道路をスキー場に早変わりさす。積雪30cm、長さ70m、巾5mの堂々たるものである。ベテランに混じて、超ベテランの田村君、片山さんのスキー。津田さんのそり、実に豪かいそのもので見事という外、言葉なし??。

夕食後もこのスキー場に、車のヘッドライトを当て、ナイターとしゃれこむ、ちょっと考へられない夜の舞台に童心にかえり、テントに入るのも忘れる。

12日 思ったより暖い朝で、-5℃位。何時もより多い食事を摂って7時35分テントを後にする。昨日のスキー場から小さい林をつめると巾4m程の林道にでる。こゝから20分程でフェンスに囲まれたミニ水源池に着く。こゝまではゆるい登りで案外楽であったがこれからは登り一辺倒で、小憩の後、気合を入れて出発。

昨日入山した岳人の輪かんの跡でルートは判るようであるが、やはり地図と自己の判断が頼りである。

高度を増す如に確実に積雪が多くなり、1.3m位はあるだろう。東側に1000m級の稜線が見え隠れ、又南には冬のヴェールに包まれているが、かすかにキャンプ地が遠望できる。景色にみとれていると、雪の下の笹や木の枝が足にかゝり腰まで入ることしばしば、約2時間30分の苦斗の末、やっとゆるい登りになる。山頂はもう近い、高いきょう木の樹氷が歓迎するが如く、冬の芸術

作品を見せてくれる。ここからほんの少しで山頂に到達。

積雪は約2 m程で三角点を求めて雪を掘るが、到底不可能。三角点と思しき所で、登頂のセレモニーと乾杯。1358米の山頂でのビールの味と暖いうどん、焼めしの味は忘れ難いものがある。ガスがかゝって、展望は今一つだが、二日程前に来た冬將軍の白い贈り物と、今日の天候には感謝する。気温-2℃。

1時間程の休憩の後、帰路へ。樹氷帯が光線の都合か往路よりも輝いて見える。

少し下った所からトレースしていない西側新雪のルートに入る。勾配が非常に急なのと、深い雪のため腰まで沈みながら、かん木の林を下る。夏道もこの辺りにあるのだろうが、この雪では求めるのが無理、約1時間30分程で水源池に着き、こゝから20分程で、キャンプ地に無事到着。

帰路は中国自動車道、吉川より篠山、亀岡ルートで帰へる。

[コースタイム]

11日 壬生7:35 -加西9:05 -山崎11:05 -キャンプ地13:55

12日 キャンプ地発7:38…水源池8:20…山頂11:09…山頂発12:20…水源池
13:50…キャンプ地14:15 -キャンプ地発15:15 -山崎インター16:20
-吉川ジャンクション17:15 -壬生18:50

[参加者] 岡田、大槻、古市、方山、田村、津田、横井 (7名)

北 山 二 山

(点名)宮ノ辻 512.3mと(点名)長尾 528.9m

大 槻 雅 弘

本当によく降る雨だ。今回も予定していた所が雪はなし。2月24~26日と三連休なのに日本全国は天皇陛下の大喪の礼の涙雨かどこも雨ばかり。京都でも、2月の降雨量としては過去最高とか、とにかく今冬の天候は異状づくめ、スキー場はサッパリである。

その天候の晴れるのを待って、26日の日曜日の昼下りに家を出た。北山へ向う高雄辺りではウィンドウワイパーがせわしく廻る程の雨かと思えばサーと晴れたり。笠トンネルを抜けても霧雨。宮之辻の信号を左折して尋ねた人が目的の山の持主であったのは幸運であった。「あたって行きなさい」とストーブの火を進められ、点名宮ノ辻の山名を「西ノ谷」と教えてもらう。栗尾峠から登る径がいいと、教えられた通りのコースを20分で三角点。三頭山、地藏山が白く雪をかぶっていた。登路は、峠手前50m程の処を送電線の巡視路に添って塔まで登り、左折5分で三角点である。

車止まで下りて、時計を見るとまだ早いのでもう一山登ろうと細野の下長野へ。ここでも82才のおじいさんに目的の山を尋ねると点名長野の山名を「森ヶ谷ノ頭」と教えてもらった。そして「最近まで知らなんだが文化財の調査に、宇津坂の峠にある地藏さんを調べに行ったが、よく見ると一つの石の地藏さんに二体彫ってあった。さぞかし一人では淋しかろと昔の人は二体一緒にした

のだろうと、村人に話してやったのだ」と峠の地藏さんと山について話を聞いた。

その峠は、下長野からの呼称は「宇津坂」であり、宇津の人は「長野峠」と言っていたそうで、登りにお地藏さんにお供をして、下りには山の花も添えておいた。

この山も又、30分程で登れ、径もしっかりしているので土曜日の昼からでも登れるので、部員の人達に推めたい山である。但し、マイカ登山である。

なお、登路は下長野バス停250m手前の小さな谷を目印に登るとすぐ堰堤に出る。それを左に径を取るとあとはジグザグに一本径で峠へと登る。三角点へは峠から左折して10分である。

屋久島と口の島（トカラ）の山旅

坂井久光

2/28 四大で福本と待合せたが、体調が悪いとのことで帰り独りで出発。大阪南港で東京から田中三郎（300名山3人目、JAC・1△・深田クラブ）77才を待つ。

サンフラワーに間に合い3/1志布志港上陸、バスで鹿児島へ。天文館で下車。

昼食后、名山栈橋へ向い十島村役場へ行き資料や出航を問う。シケの為出航は翌日とのこと。そこで屋久島へ先に行くことにして桜島温泉旅館に一泊。3/2屋久島宮浦港に到着、みよし旅館に投宿。3/3タクシーで宮浦林道の志戸子岳登山口へ。一昨年時間切で未登の山へ3度目の挑戦だ。3時半に迎へを頼んで常緑広葉樹林の支尾根に取付く。

佐渡島以来の久しぶりの登山だが、始めは元気だったが、10m登ると5m位遅れる有様で、短い脚と年齢の差か。2時間位で登った分岐点へ4時間位かゝり、これではとても登頂は出来ないとおきらめ、途中の縄紋杉のピーク迄行って昼食休憩后引返すことにした。

帰路支脈に迷いこみ、山の神を祀った峰に出て引返す。分岐に出て途中迄往路を辿ったが、時間が気にかゝり、支尾根に迷込み下山を続け、登山口より約200m上流の林道に下山。道は2年前と違って藪草やつるの生育がひどく樹林の下はなかったが、伐採後の日当のする処は藪でつるや茨がはびこり時間をくったのが最大原因だった。

新品のシャツはボロボロで旅館に帰り計量したら彼は1.5kg、私は1kg減量した程で天気がよかった為、体中汗だらけだった。

田中はこんな山は始めてだと驚いていたが、年収二千万円の彼には体にこたへたらしい。翌朝の船で鹿児島へ戻り、彼は青色申告の為急拠航空機で帰都。私は十島丸の出航迄島田旅館で2日待ったが、出航日の夕刻栈橋に行ったが船はなく近くで聞いたら欠航とのこと。

3/7 仕方なしJRで大分に行きJACの西を尋ね大分の友人の近況を聞いて登山靴を買って別府からサンフラワーで神戸へ。ノータリクラブ会長の新田を呼出し、ソゴウ店前で久しぶり歓談。再入会して再建に一役買うことになった。5月中旬冷水嶺へ案内の予定。

[コース・タイム]

2月28日 四大—大阪南港区島阜頭 16:20~18:00
 3月 1日 志布志港 10:20~40着—鹿児島 13:30着—桜島温泉(泊)
 3月 2日 8:00鹿児島—12:30屋久島 みよし旅館(泊)
 3月 3日 8:05登山口—11:20~25分岐 12:10~40引返—13:50~55
 山の神峰—14:35分岐—17:30~40下山
 3月 4日 8:30宮浦港—13:00鹿児島
 3月 5日 島田旅館(泊) 9:37鹿児島—14:55~18:20大分—18:35~
 ~7日 19:20別府
 3月 8日 6:53神戸港上陸 帰京

例会報告

例会№	目 地	月 日	天候	担 当 者	参 加 者	記 事
1725	変更 三室山	2月11日 ~ 12日		岡田 茂久	大槻、古市 方山、田村 津田、横井	(別稿詳報)
1726	干谷山 湖北ブン (ゲン積雪) なく変更)	2月19日	晴	大槻 雅弘	F1	これでブンゲンが行けないこと 4回目。なんと言ってもこの暖冬 では、東北地方も雪不足でスキー 大会が中止になる所が出る始末。 参加予定者に前日中止を伝えたが、 19日は良い天気になったので急 拠ファミリーと以前から登りたか った周山の筒江から干谷山二等△ 644.8mを登って来た。 井戸峠を越えて常照寺へ抜ける林 道工事中でスタート地点が確認し にくかったが約1時間程で三角点 に登った。 北面から見る比良・蓬萊は思った より白かった。
1727	祖父谷峠 石仏峠	中止しま した。				

昭和63年度 山岳部

総 会 報 告

3月10日(金)18時30分より、下鴨寮において、昭和63年度の京交山岳部総会を開催しました。司会の川原氏の開会宣言後議事に入りました。

[出席者]

- (OB) 近藤、山村、坂井、石田、河村、奥村、津田、横井、辻、今井 (市役所) 荒田
(本局) 松井、鷺見(敏)、古市、若山、三橋、原田、和田、大槻(雅)、方山、田村、
井戸、大木、山元、井上、川原(高速) 岡田、大倉(梅津) 吉田(錦林)
田中
(九条) 上島(烏丸) 森本、坂田、上田、山本 以上 35名

議 事

- 1 昭和63年度京交山岳部事業報告
- 2 山岳部費の値上げについて
- 3 昭和63年度山岳部活動表彰
- 4 規 約 改 正
- 5 昭和63年度会計決算、平成元年度会計予算
- 6 役 員 改 選
- 7 平成元年度京交山岳部年間計画
- 8 京交山岳部創立40周年記念事業の取り組み
- 9 そ の 他

(1) 昭和63年度京交山岳部事業報告 (岡田部長)

昭和63年度の山岳部年間計画のメインテーマは、「自然へロマンを求めて”京都国体を皆んなの手で”」でした。京都国体は皆さんのおかげで大成功の内に終了しました。

山行計画の内容はメインテーマにふさわしく、1月初登山の二上山、頓鶴峰から12月の還歴登山を兼ねた納山祭の龍尾山までバラエティーに富み、山行の形態も縦走から岩、沢登りやスキーツアーと様々の例会を組むことができました。しかし京都国体の為に部の有力メンバーの手がとられ

た影響から、昭和62年度と比較すると計画された山行例会数では2割減、しかも中止になった例会が9回にも及び、例会参加の延べ人数も1割程度が減少しています。又、一度でも例会に参加して頂いた部員は、全部員の33%になり、昨年と比べるとこれも2割程度の減少となり、例会一回当たりの参加人数も7人弱となって、1昨年と同じレベルに落ち込んでしまいました。これは限られた部員のみが山行を計画し実施しているからであり、その部員に支障がでると途端に落ち込む現象です。全部員がせめて2月に1回の山行をしたとすると、これだけでも述べ700名になります。年1回の例会を担当すれば120回で月10回もの例回が組めます。決して参加数が多いから良い山とは限りませんが、少なくとも例会数と参加人員は山岳部の活動のバロメーターですから多くしていきたいものです。

どのような山行に参加者が多いかとみると、例年ことですがイベント的な登山大会やお祝い登山にはいつも20名を越えるほどの参加者があるが、普段の山行では参加者が相変わらず少ないのが気になります。もっと意欲的な山行をしたいものです。

一方、集会の方も殆ど例年共横ばいです。どうか気楽に参加し山の話を楽しんでください。インドアの勉強会もマンネリ気味、登山の基礎勉強は必要だが新しいテーマも欲しいところから、来年度はこのテーマを山行の中で消化したいと思います。

投稿のほうは、やや微増というところ。しかし投稿した部員は全部員の2割程度とまだまだ低調で、OB部員の投稿が目立ち現役も奮起を望むところ。部報関係が大きく異なったことは、印刷所が変更になったため印刷代が高騰し、部の財政を大きく圧迫してきたことで、投稿が多くなると費用がかさむという矛盾に、部報の発行は山岳部活動の根幹ということもあり大変苦慮するところ。です。

集会では次の山行きの計画をし、山にいて、集会で報告、部報に投稿。このパターンは大事ですが、まずこの内の一つからでも実行してください。ちなみに例会参加、集会参加と投稿のどれかに一回以上の部員は64名と増加したがまだまだ全部員の半数です。そのなかでもOB連の活動がやはり目立つところで、ここでも現役は負けずに頑張りたいものです。

厚生会登山は、復活一回目は立山剣岳を計画し参加者には大変好評だったところから、本年度は参加者の枠も大幅に増えるようにレベルを少し落として四国石槌山としました。

来年は北アルプスとレベルの高低を交互にし、我々もより魅力あるプランと出来る限りの労力を、職員厚生事業傘下の職域山岳会として協力したいと思っています。

いよいよ、京交も本年は創立40周年。色々のイベントが計画されています。まず記念誌、京都の500m以上の山を網羅した「京都の山200余山」の発行を目的に、出版委員会で鋭意準備が進んでいます。出版委員から執筆の協力の要請があれば是非とも力を貸して下さい。

記念登山は40周年にちなんで北緯40度近辺の東北地方の山が6月から7月にかけて計画されています。その他に記念集会、記念品の配布も計画しています。楽しみにして下さい。

* 昭和63年1月～12月の活動状況

(昭和63年12月末現在の部員数124名 内OB部員26名)

(例会)

第1672回～第1719回まで 計画48回 実施39回 中止9回
全例会の延べ参加人員 257人(部員以外を含むと303人)
一例会当たりの平均参加人員 6.6人(部員以外を含むと7.8人)
例会に参加した部員数 54人(全部員の43.5%)

[参考] 10人以上参加のあった例会……………9回

1人だけ(2人以下)の例会……………5回(10回)

(集会)

昭和63年1月(新年会兼集会)昭和63年12月 計画実施12回
全集会の延べ参加人員 171人(新年会、総会除くと117人)
一集会当たりの平均参加人員 14.3人(新年会、総会除くと11.7人)
集会に参加した部員数 42人(全部員の33.9%)

(投稿)

部報発行昭和63年1月号～12月号 発行12回
全部報の延べ原稿数 88(山声雪語等を除くと76稿)
[参考] OB部員からの投稿 36稿(47%)
各号当たりの平均原稿数 7.3(山声雪語等を除くと6.3稿)
[参考] 一部報最高原稿数 10 一部報最低原稿数 5
投稿した部員数 30人(全部員の24.2%)

(総合)

例会、集会、投稿のいずれかに1回以上参加(投稿)した部員 64人
(全部員の51.6%)
例会、集会、投稿の各々に1回以上参加(投稿)した部員 18人
(全部員の14.5%)

(2) 山岳部費の値上げについて (鷲見副部長)

部報の印刷所が昨年7月号から変更となり、印刷コスト上昇分を今年度は部費を値上げせず、他の費目から切り盛りしてまいりました。スポンサーに付きましても広告料の値上げをお願いし、一

部を除いて新年度より値上の了解を得ています。また、OB部員の皆様には部費と部報発送費の自己負担を以前から実施しています。しかしここに至って新年度からも部報発行も継続していくためには部員の皆様にも印刷コスト増額分の負担をお願いしなければならない状態となりました。

印刷コスト増分は部員減を考慮の上試算しましたが、1,000円～2,000円程度となりました。したがって、現行の3,000円と印刷コスト増を足しまして新しい部費として5,000円をお願いします。

部費値上については以上の説明の後、拍手をもって承認されました。

(3) 昭和63年 山岳部活動表彰 (大木)

例会参加			集会参加			部報投稿			総合(バランスのとれた部活動)		
	26	三橋 勉		12	岡田 茂久	①	8	伊藤 潤治	①	39	三橋 勉
①	20	横井 襄二	①	11	坂井 久光		7	津田 実		36	横井 襄二
	18	津田 実		11	横井 襄二		5	坂井 久光	②	36	岡田 茂久
	18	大槻 雅弘		11	大槻 雅弘		5	横井 襄二	③	34	大槻 雅弘
	14	奥村 弘信		10	方山 宗子		5	三橋 勉	④	31	津田 実
②	13	方山 宗子		9	古市 昌造		5	大槻 雅弘		23	坂井 久光
	12	岡田 茂久		9	吉田 武	②	4	田村 正弘		23	方山 宗子
	10	伊藤 潤治		9	大倉寛治郎					22	伊藤 潤治
	9	田村 正弘		8	三橋 勉				⑤	20	奥村 弘信
③	8	原田加津子		7	井戸 澄夫					17	吉田 武
	7	坂井 久光	②	6	和田 良一					16	古市 昌造
④	7	渡辺 朋子		6	津田 実					16	大倉寛治郎
	7	吉田 武		6	井上 一夫						
				6	大木 秀実						
				5	奥村弘弘信						
								※ 山声雪語等 を除く			※ 山声雪語 を含む

例会参加、集会参加、部報投稿については、企画運営委員は表彰より除く。

(4) 京都市交通局山岳部規約改正 (大木)

〔現 行〕		〔改 正〕	
第1章 組 織		第1章 組 織	
第4条(支 部) 山岳部活動の便宜を図る		第4条(支 部) 山岳部活動の便宜を図る	

ため次の支部を設ける。

本局、西賀茂、梅津、五条、高野、醍醐、三哲、横大路、錦林、九条、烏丸、洛西、高速、市役所、OB

第3章 役員

第8条（役員） 山岳部に次の役員を置く。

部長 1名 副部長 2名
企画運営委員 若干名
リーダー 若干名
本部委員 若干名
支部委員 若干名

第12条（本部委員及び支部委員）

本部に事務局委員、本部会計委員、備品委員、部報委員及び渉外委員を置く。

- 2 支部に実行委員及び会計委員を置く。
- 3 事務局委員は山岳部の庶務を取り扱う。本部会計委員は、山岳部の会計を取り扱う。備品委員は、山岳部備品の購入、管理と保守整備及び貸出しを行う。部報委員は、毎月の部報の編集と発行及び発送を行い、友好山岳団体から寄贈の会報等の整理を行う。
- 4 実行委員は、支部にあって本部との連絡及び支部山岳活動の掌握をする。会計委員は、部費徴収等を含め各支部の会計を取扱う。

第13条（役員の選任及び任期）

部長、副部長及び第12条に定める委員は、総会において出席者の互選により決定する。

2 第10条及び第11条に定める役員は、総会で承認を得て決定する。

3 役員は任期を2年とする。ただし再任及び兼任は妨げない。

第6章 部費及び会計

ため次の支部を設ける。

本局、西賀茂、梅津、五条、醍醐、横大路、錦林、九条、烏丸、洛西、高速、市役所、OB
(高野、三哲を削除)

第8条（役員） 山岳部に次の役員を置く。

部長 1名 副部長 2名
企画運営委員 若干名
リーダー 若干名
本部委員 若干名
支部委員 若干名

上部団体への派遣役員

若干名（追加）

第12条（本部委員及び支部委員）

本部に事務局委員、本部会計委員、備品委員及び部報委員を置く。 (削除)

- 2 支部に実行委員及び会計委員を置く。
- 3 事務局委員は山岳部の庶務を取り扱う。本部会計委員は、山岳部の会計を取り扱う。備品委員は、山岳部備品の購入、管理と保守整備及び貸出しを行う。部報委員は、毎月の部報の編集と発行及び発送を行い、友好山岳団体から寄贈の会報等の整理を行う。
- 4 実行委員は、支部にあって本部との連絡及び支部山岳活動の掌握をする。会計委員は、部費徴収等を含め各支部の会計を取扱う。

第13条（役員の選任及び任期）

役員は、総会で承認を得て決定する。（変更）

2 役員は任期を2年とする。ただし再任及び兼任は妨げない。

第6章 部費及び会計

第23条(部 費) 部員は、部費として年額3,000円を1括、又は2期に納入するものとする。

2 前項の部費のほか、部員は例会において山行に要する実費を負担しなければならない。

第23条(部 費) 部員は、部費として年額5,000円を1括、又は2期に納入するものとする。

2 前項の部費のほか、部員は例会において山行に要する実費を負担しなければならない。

(変更)

(5) 昭和63年度会計決算・平成元年度会計予算 (会計 川原)

担当より提案があり、石田弘氏からのお礼の使い方の説明が部長からありました。質疑の後、原案どおり承認されました。

(6) 平成元年度～平成2年度 役員改選(案) (鷺見副部長)

[山岳連盟役員]

理 事 …………… 吉田 武(常任)・大倉寛治郎
評 議 員 …………… 出海 洋三
国体委員 …………… 鷺見 敏一・吉田 武
自然保護委員 ……… 近藤 薫・坂井 久光・奥村 弘信
遭難救助隊員 ……… 吉田 武・大倉寛治郎・岡本 義弘

(7) 平成元年度 京交山岳部年間計画 (大木)

原案より山名の訂正、山行の抹消を行ない、承認されました。

単位 円

昭和63年度京交山岳部会会計決算				
	収 入	金 額	支 出	金 額
一 般 会 計	1 部 費	4 0 4,5 0 0	1 備 品 消 耗 品 費	1 0,7 7 0
	OB	1 1 1,0 0 0	2 助 成 金	0
	本局	1 4 8,0 0 0	3 集 会 費	1,8 6 0
	西賀茂	6,0 0 0	4 総 会 費	2 0,0 0 0
	梅津	9,0 0 0	5 部 報 代	4 0 4,8 0 0
	五条	6,0 0 0	6 通 信 費	2 8,0 0 0
	醍醐	6,0 0 0	7 遭 対 資 金 積 立 金	4 0,0 0 0
	横大路	3,0 0 0	8 岳 連 会 費	9,5 0 0
	錦林	1 2,0 0 0	9 事 務 費	1,9 9 0
	九条	9,0 0 0	10 4 0 周 年 記 念 積 立 金	4 5,0 0 0
	烏丸	3 1,5 0 0	11 雑 費	1 6,0 0 0
	洛西	1 8,0 0 0	12 次 年 度 繰 越 金	2,8 1 4
	高速	3 6,0 0 0		
	市役所	9,0 0 0		
		2 厚 生 会 助 成 金	6 0,0 0 0	
	3 雑 収 入	1 1 5,1 4 2		
	広 告 料	5 5,0 0 0		
	雑 収 入	6 0,1 4 2		
	4 前 年 度 繰 越 金	1,0 9 2		
	合 計	5 8 0,7 3 4	合 計	5 8 0,7 3 4
40積 立 金 記 念 計	1 次 年 度 繰 越 金	3 7 0,0 0 0	1 次 年 度 繰 越 金	4 1 5,0 0 0
	2 6 3 年 度 積 立 金	4 5,0 0 0		
	合 計	4 1 5,0 0 0	合 計	4 1 5,0 0 0
遭 難 立 対 策 資 金	1 前 年 度 繰 越 金	1,5 3 5,4 1 9	1 次 年 度 繰 越 金	1,6 1 1,3 1 3
	2 利 息	3 5,8 9 4		
	3 一 般 会 計 繰 入 金	4 0,0 0 0		
	合 計	1,6 1 1,3 1 3	合 計	1,6 1 1,3 1 3

単位 円

平成元年度京交山岳部会計予算				
収 入		金 額	支 出	金 額
一 般 会 計	1 部 費 (100×5000)	500,000	1 備品消耗品費	20,000
			2 助 成 金	5,000
	2 厚生会助成金	60,000	3 集 会 費	12,000
			4 総 会 費	20,000
	3 雑収入	110,000	5 部 報 代 (43000×12)	516,000
	広 告 料	60,000	6 通 信 費	35,000
	雑 収 入	50,000	7 遭対資金積立金	50,000
	4 前年度繰越金	2,814	8 岳 連 会 費	9,500
			9 事 務 費	3,500
			10 雑 費	1,814
	合 計	672,814	合 計	672,814
40積 周年 記念 計	1 前年度繰越金	415,000	1 記念事業費用	415,000
	合 計	415,000	合 計	415,000
遭積 難立 対策 資金 計	1 前年度繰越金	1,611,313	1 次年度繰越金	1,701,596
	2 利 息(2.5%)	40,283		
	3 一般会計繰入金	50,000		
	合 計	1,701,596	合 計	1,701,596

※三和1年定期 3.39%×0.8=2.7%

(8) 京交山岳部創立40周年記念事業の取り組み

(1) 記念登山

北緯40度みちのく一等三角点の山を訪ねて

森吉山・岩手山・早池峰

日時 平成元年6月29日(木)～7月3日(月)

4泊5日(車中1泊・山小屋1泊・温泉2泊)

担当 大槻雅弘、吉田 武

費用 11万円(+αあり)

行程 29日(木) 30日(金)

京都駅 日本海 (夜行) — 秋田駅 レンタカー [こめつが荘]

徒歩
.....[避難小屋]泊
2時間

1日(土)

(避難小屋) 徒歩 森吉山I△1454m 徒歩 [こめつが荘]
1時間 2時間

レンタカー [網張温泉]泊

2日(日)

[網張温泉] リフト [1300m地点] 徒歩 岩手山I△2041m
20分 4時間

徒歩 駐車場 レンタカー [河原坊]泊
3時間

3日(月)

(河原坊) 徒歩 早池峰I△1914m 徒歩 [河原坊]
3時間 2時間

レンタカー 花巻空港 飛行機 大阪空港 バス 京都

(2) 記念集会

日時 平成元年7月下旬頃

担当 鷲見 敏一

費用 5千円程度

内容 ・歴代山岳部長による40周年のあゆみ(講演)

・著名登山家による記念講演

場所 未定

(3) 記念品

配付予定日 平成元年7月下旬頃(記念集会に合わせ)

記念品名 未定ですが予算もありますので御期待下さい。

担当 岡田 茂久、大倉寛治郎

平成元年度 京交山岳部年間計画

メインテーマ
自然へロマンを求めて
安全で楽しい登山
自然の中に余暇を有効に

項目 月	テーマ	大会山行	山	行	行事	備考
4	雪を 惜しんで	春山大会 能郷白山 (29・30)	桜井 長谷寺 鷲ヶ岳(8・9) 賤ヶ岳	↑		岳連総会(23) 国体予選 (15・16)
5	山は新緑		富士山(3~6) 東山巡りⅡ 籠ノ登山と三方ヶ峰(5~7) 桜井 御破裂山 北山 奥の谷山(21)			
6	チョット 渋い山へ		御在所 東山巡りⅢ 藤内壁(11) 美濃 五蛇池山 金剛堂山(3・4) 北山 大倉ノオ(18)			
7	40周年 バンザイ	40周年記念登山 北緯40度の山 岩手山・早池峰 山・森吉山 (6/29~7/3)	美濃 俣丸		40周年 記念集会	
8	気持は 3000Mの 稜線		越後三山(25~28) 雨飾山 槍ヶ岳北鎌尾根 丹後の山と海水浴			厚生会登山 北アルプス 双六岳~槍ヶ岳 (11~13)
9	近畿の 背稜へ		法師山(15~17) 大峰山 釈迦ヶ岳(15~17) 地藏山 笠捨山 北国街道を歩く 木ノ芽峠	京 都 府 の 山		はまなす国体 (17~21)
10	奥美濃再見		御前山(7・8) 荒島岳(15) 黒壁(21・22) 青山高原	兼		全日本登山大会 広島 三倉岳 (8~10)
11	紅葉を 求めて	秋山大会・合同 登山 (25・26)	国師ガ岳(3~5) 若丸山 高賀山 生石高原 生石ヶ峰	府 県 境 シ リ ー ズ		
12	新雪と落ち 葉を踏んで		粟鹿山(10)	ズ	還歴登山・ 納山会蛇谷 (16・17)	
1	白いロマン を求めて	初登山 鞍馬山(7)	白馬山(14・15)		新年会 (10)	
2	雪と戯れて	雪山大会 スキーバス 御岳	比良 武奈ヶ岳	↑シ 山リ ス キ ズ↓		
3	スキーを 楽しく		日名倉山 白馬岳	↓	総会(15)	
アウトドアテーマ		山草について、 山行記録と報告のまとめ方、 山の名前(地名)の調べ方、		地図の読み方、 山の写真、 山の健康管理、		幕営用具の使い方、 山のスケッチ

(4) 記念出版

出版本名 〔京都府の山・213山〕(仮称)

内容 京都府下500m以上の三角点標石埋設されている182山および独標31山を網羅した200ページ前後の出版物

山名 地形図山名 点名 標高 地形図名 三角点等級 コースタイム

標準原稿 表題・5行文 本文・30字×25行=750字

他に本文・10行(300字) 40行(1200字) 55行(1650字)

各責任者 丹後の山(31山)奥村、岡田、大倉

丹波の山(122山)近藤、坂井、鷲見、武田、吉田、井戸、田中

京都市以南の山(60山)山村、津田、大槻、三橋、岡本、川原

(編集)岡田、近藤、奥村 (地図)大槻、大木、鷲見、岡本

(山名)坂井、山村、武田 (資金)田中、三橋、川原

(製本)井戸、津田、山元、大木(写真)沢井、井戸、吉田、大倉

(文章の統一・校正)

雑 報

✿ 他山岳会の会報(受贈分)

2月号 京都山岳、青嶺、一等三角点、わっぱ、愛宕ニュース

3月号 北山、比良山岳、近畿山行、趣味の登山、木雞、山友、支部だより(日本山岳会京都支部)

✿ 退 部

鳥丸 片岡 秀明、西賀茂 飯原 京二、高速 中村富美夫、OB 上原 昭二

✿ 部報の訂正について

3月号で以下の所に間違いがありました。訂正します。

P1 〔第1729回例会〕の(上丹国境屋根)→(城丹国境屋根)

P10←9行目 引座→31座

御婚礼
御引越



地方宅配
運搬専用

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター・京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075) 581-3101

祝 い さ い わ い

本社・京都市東山区大和大路通四条下ル

TEL (075) 541-2345(代)

お知らせ

御得意様各位

平素は、格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

昭和63年6月より、新住所にて営業致します。旧倍に増して、御来店の程心よりお待ち申し上げます。

記

新住所 〒600 京都市下京区不明門通り六条下る西側
(烏丸通りより1筋東の通り)
TEL 075-351-6598(代)

榊 小林地 図 専門店

SINCE 1980

THE LOG CABIN CO.

H.HASEGAWA'S SHOP

FOR ALPINISTS

KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西 島 輝 雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442

山とスキー用具専門店

株式
会社

ロッジ 京都店



京都市中京区御池通高倉西入高宮町
(千代田生命京都御池ビル1F)

☎(075) 255-0595

テニス

サイクル (自転車)

も取り扱っています。

帆 布・濾 布
テント・シート
雨 合 羽
木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店
京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル
TEL (801)1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691)8041
山科店 山科区音羽野田町1番
西友ストア-山科店
TEL (592)9770 内線 228

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

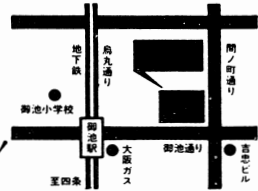
ハイキング&キャンプ・クライミング
アウトドアウェア・US版出品
ボイスソフト用品

mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548
●営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

登山とアウトドア専門店
今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カーブをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

●技術とサービスの創る!印刷

株式会社
北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷 ●電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)
TEL(075)791-6125(代)
FAX(075)791-7290

平成元年4月1日

京都市中京区壬生坊城町4 8
京都市交通局内

京交山岳部